


2019年度 トコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2020/12/30

団体名	CAPなのはな	活動タイトル	子どもの人権を伝えるCAPを周知し、子どもへの支援者を増やします。	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■ 活動風景	
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	<p>「子どもの人権が尊重され、子どもが安心して暮し、成長していくことができる社会」をめざします。</p> <p>具体的には、CAPワークショップ（以下CAPWS）を通じて、CAPが伝えている、人権「安心・自信・自由」の3つ権利を子ども自身持っていることを知ることで、またおとなもCAPを知ること、人権を理解し、子どもの人権を尊重するおとなを増やします。子ども・おとなが人権について共通理解することで、子どもをいじめ・誘拐・虐待・性暴力といった様々な暴力から子どもを守り、子どもが安心して成長していく地域社会を作ることをめざします。</p>		<p>中島さんの語り、熱心に耳を傾ける参加者</p>	
●団体の社会的役割(ミッション)	<p>①子どもの人権を理解し支援する人を増やしていきます。CAPプログラムをおとな・子どもに提供し、大切な権利が奪われそうになったら、どう対処したらいいのが伝えます。CAPの言葉を共通理解して、暴力のことを相談しやすい環境をつくれます。</p> <p>②子どもや暴力被害者の視点に立った講師による講演会を開催して、正しい情報を地域に伝えます。DV被害者への理解をすすめる、二次被害を減らします。またDV環境で暮らす子どもに、地域でどんな支援ができるか考える機会とします。</p>			
●団体の活動基盤	<p>人材育成：CAPスペシャリストとなって活動の運営やWSを担えるメンバーを増やします。</p> <p>活動資金：WSの依頼を増やし、事業収入を増やします。</p> <p>ナレッジ：内部研修やワークショップを担当し、実践的取り組みを積みました。経験を振り返り、記録し共有してきました。今後は記録を活かして、さらに内部研修を活かす仕組みを考えていきます。</p> <p>C A Pワークショップで担当できる役割・スキルの向上をめざす仕組みを考えます。</p>			
■ 活動報告		■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)		
<p>CAPプログラム</p> <p>子ども向けには、就学前は9回、小学生は11回、合計20回実施。おとな向けには、17回を実施することができました。</p> <p>中島幸子氏の講演会</p> <p>1月25日、柏市のパレット柏を会場に開催しました。この日は、野田虐死事件が報道されたちょうど1年後にあたり、地域の関心が高く、NHKの取材、新聞の報道されました。参加者は90名で、内約70%の方は、CAPワークショップ（以下WS）の経験がない方でした。講演参加者に、CAP活動について紹介することができました。</p> <p>活動基盤強化</p> <p>①CAPスペシャリスト養成講座</p> <p>2月・3月に柏市内で養成講座を開催しました。9名が「CAPなのはな」に加入しました。</p> <p>②人材育成</p> <p>トレーニングセンターのディレクターに講師を依頼して、実践的なトークタイム研修を実施しました。児童養護施設職員・虐待対応の医療従事者などの専門職WSでは、ディレクターと一緒に実施し、終了後にレクチャーを受けました。</p>		<p>【アウトプット目標】</p> <p>CAPプログラム</p> <p>子どもWS 目標より+4回で、参加者 436人</p> <p>おとなWS 目標より+1回で、参加者 352人</p> <p>【アウトカム目標】</p> <p>①CAPプログラム</p> <p>「安心して生きる権利がある」(実施前) 60% ⇒ (実施後) 92%</p> <p>「よくわからない」33%⇒4%、困った時「いやという」19%⇒73%</p> <p>「逃げる」8%⇒66%、「相談する」47%⇒78%と 我慢する 46%⇒ 26%</p> <p>おとなWS子どもにCAPを受けさせたい 94%</p> <p>②中島氏の講演会 参加者の内5名から、養成講座参加の申込みがありました。</p> <p>③人材育成 9人加入しました。目標の15人に至りませんでした。</p> <p>それでもメンバーが増えたことで、グループ活動が活発になりました。</p>		
■ 事業を通じて得られたノウハウ		■ 望ましい社会状況を達成するための課題		■ 活動成果のアピールポイント（自由記入）
<p>CAPプログラム提供先・連携の広がり</p> <p>①コロナ感染症のために学校でのCAPの提供ができない時期がありました。それでも学童・主任児童委員・病院等、子ども支援に関わる方に提供することができたことで、子どもを支援機関、個人との新たな連携と新たな地域でCAPを広げる機会をもつことができました。</p> <p>②私立保育園でのこどもWSは、園の判断で実施できるために、就学前WSの実施回数が増えました。</p> <p>講演会開催</p> <p>講演会の広報や当日のお手伝いにボランティアをお願いすることで、連携を築きかけにすることができると思いました。</p> <p>活動基盤強化</p> <p>まだまだCAPの実施回数が少ない状況です。増やしていくためには、公開WSや講演会などの機会を使って活動への理解をすすめることが必要だと思いました。</p>		<p>CAPプログラム実施を増やす</p> <p>私たちの地域では子ども虐待、自死・性被害などニュース報道される様々な問題が起きています。それでも子どもにCAP実施に至っていない現状があります。実施できているCAPグループの取り組み等を参考にして、何が出来るか考えていきます。</p> <p>活動基盤強化</p> <p>①地域で暮らす全ての子どもたちに届けていくには、依頼先の要望に合わせてCAPを提供できることが必要です。5種類あるCAPWSの子どもWSを提供できる人材を養成すること。特に実施の可能性が高い就学前WSができる人材を増やすことです。</p> <p>②講演会の開催を継続していくための資金確保です。</p> <p>③人材育成・グループ運営など、マニュアルを作成することが必要だと考えています。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p> <p>9名のスペシャリストが加入し 基盤強化</p> <p>を達成しました。</p> <hr/> <p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>「安心・自信・自由」は、誰もが持っている特別に大切な3つの権利です。子どもは自分が権利を持っている存在なのだということ、「いや」「逃げる」「相談する」という、自分を守るために、主体的に行動しようとする変化が見られました。</p>